

令和6年度 子供読書活動推進に関する調査の集計結果について＜概要版＞

令和6年度調査の概要

- 第四次東京都子供読書活動推進計画に基づき実施
- 都内の子供の読書の状況、及び公立学校や公立図書館等における読書活動等の現状を把握し、今後の施策に活用することが目的
- 実施期間 令和6年9月
- 調査方法 原則Webフォームによる回答

■調査対象

- (1) 読書状況調査
都内公立学校の児童・生徒
(小1、小3、小5、中2、高2の5%抽出)
- (2) 読書活動取組状況調査
①都立学校及び都内公立小中学校、②都内区市町村教育委員会、
③都内区市町村子供読書活動主管課

	調査人数
小学校	30,045人
中学校	9,068人
高等学校	2,106人

児童及び生徒の読書の状況について

児童・生徒の不読率

■不読率（％）

※1か月の間に1冊も「本」を読まなかった児童・生徒の割合

	H25	H27	H29	R1	R4	R6
小1	2.6	2.3	3.3	3.0	4.5	7.6
小3	2.8	3.8	4.8	3.8	4.6	7.4
小5	5.4	5.0	3.7	4.2	5.1	7.4
中2	13.2	11.1	11.1	9.9	10.3	11.6
高2	31.8	36.8	28.8	30.6	33.4	36.3

※電子書籍は「本」に含む。教科書、学習参考書、漫画、雑誌、図鑑、写真だけの写真集・絵だけの絵本、画集は「本」に含まない。

・各学年とも不読率は上昇傾向にある。

（参考）全国における1か月間に本を読んでいるいない児童・生徒の割合（％）

	H25	H27	H29	R1	R4	R6
小学生	5.3	4.8	5.6	6.8	6.4	8.5
中学生	16.9	13.4	15.0	12.5	18.6	23.4
高校生	45.0	51.9	50.4	55.3	51.1	48.3

（全国学校図書館協議会「学校読書調査」）

※小学生（4～6年生）、中学生（1～3年生）、高校生（1～3年生）が対象。

不読の理由

■「本」を読まなかった理由【複数回答可】（％）

	R4	R6
読みたい本がなかったから	39.5	39.9
本を読む時間がなかったから	33.9	31.3
本を読むことに興味がないから	41.1	39.4
文章を読むこと、字を見ることが嫌いだから。面倒だから	16.8	20.3
どれもあてはまらない	7.0	12.3

「読みたい本がなかったから」「本を読むことに興味がないから」の回答が高い割合で推移している。

読書のデジタル化

■読んだ本の中に電子書籍があった児童・生徒の割合（％）

	R1	R4	R6
小1	10.1	13.5	17.7
小3	11.0	13.6	18.1
小5	14.9	18.3	22.9
中2	19.8	23.7	28.2
高2	25.6	27.6	33.7

■電子書籍は誰のパソコン等で読んだか【複数回答可】（％）

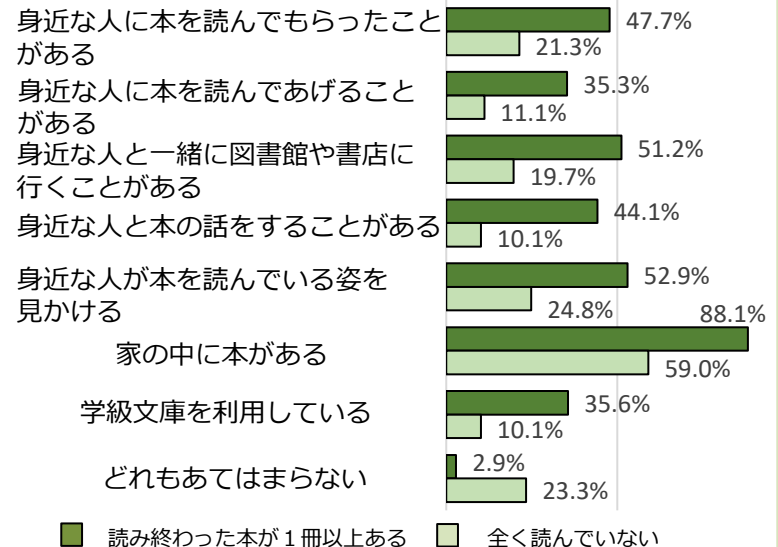
	家族	学校貸与	自分	その他
小1	42.3	25.6	27.1	14.4
小3	32.9	33.8	39.7	11.8
小5	32.0	34.9	50.4	5.7
中2	13.0	10.3	88.4	1.7
高2	8.8	7.3	89.4	1.7

読んだ本の中に電子書籍があった児童・生徒は増加した。

学年が進むにつれて、家族や学校貸与から自分の機器で読む傾向

身近な読書環境

■「本」を読んでいる児童・生徒と読んでいない児童・生徒の身近な環境の違い（％）【複数回答可】



「本」を読んでいる児童・生徒は、身近な人と本を通じて交流している割合が高い。

学校における読書活動等の状況について

学校での取組

- 学校経営方針等に読書活動の推進を位置付けている学校の割合 (%)
- 学校経営方針等に学校図書館の活用を位置付けている学校の割合 (%)

	H27	H29	R1	R4	R6
小学校	96.2	98.0	96.7	94.3	92.7
中学校	90.9	94.0	93.9	89.9	87.7
高校	82.1	82.6	81.7	80.3	78.4

	H27	H29	R1	R4	R6
小学校	92.5	95.9	94.7	92.7	89.3
中学校	79.2	88.2	90.3	87.2	82.2
高校	70.5	69.1	69.2	75.9	78.4

- 朝や昼休み等に読書時間を設定している学校の割合 (%)

	H27	H29	R1	R4	R6
小学校	96.3	96.8	95.3	90.7	89.9
中学校	90.5	94.6	93.4	92.8	93.6
高校	25.6	22.4	27.6	21.0	24.2

高校は一部改善の兆しはあるものの、小・中学校における読書活動の推進に係る取組は、コロナを境に減少傾向にある。

学校図書館の状況

- 4月から調査時点までの間、学校図書館を利用した児童・生徒の割合 (%)
- ボランティアが読み聞かせなどの読書活動支援を行っている学校の割合 (%)

	H27	H29	R1	R4	R6
小学校	91.8	89.8	88.5	87.1	92.0
中学校	63.0	61.1	61.7	59.5	55.0
高校	42.9	41.6	41.2	42.0	48.7

	H27	H29	R1	R4	R6
小学校	88.7	90.5	87.4	70.0	76.0
中学校	12.9	17.0	16.4	8.5	9.3
高校	3.5	3.1	2.9	6.9	5.9

・ 学校図書館の利用は、小学校と高校はコロナ前を上回る状況。

・ ボランティアが読み聞かせやブックトークなどの読書活動の支援を行っている学校は、小学校と中学校では増加したが、感染症拡大前の割合までは戻っていない。

学校の読書活動における特色ある取組（抜粋）

（一人1台端末を活用した様々な取組）

一人1台端末を活用した購入希望図書のアンケート、図書だよりや図書館インフォメーションを全校生徒に向け配信等

（学校図書館のレイアウトの工夫等）

ボードゲーム、覆面本、リラックススペース、生成AI体験コーナーなど興味・関心を高めるコーナーの設置

区市町村における子供の読書活動の推進に関する計画策定率

策定率 83.9% (52/62区市町村)

計画目標である全ての自治体での計画策定には至っていない。

学校における新聞配備・活用の状況について

公立学校の新聞配備の状況

- 学校図書館、普通教室いずれかに新聞を配備している学校の割合 (%)

	R4	R6
小学校	60.0	66.1
中学校	73.9	76.4
高校	100.0	100.0

(参考) 全国における学校図書館、普通教室いずれかに新聞を配備している学校の割合 (%)

小学校	56.9
中学校	56.8
高校	95.1

(文部科学省「令和2年度学校図書館の現状に関する調査」)

・ 新聞の配備割合は、各校種とも高まっている。

新聞費の予算化の状況

- 小・中学校に新聞を配備するための費用を予算化している区市町村の数

予算化している32自治体の内訳 (数)

	R4	R6	①学校図書館新聞費	②それ以外の新聞費	①②両方	その他
都全体	18	32	17	9	1	9
区市部	8	16				
市部	3	11				
町村部	7	5				

(62自治体中)

(23自治体中)

(26自治体中)

(13自治体中)

予算化していない30自治体の内訳 (数)

	①消耗品費等から学校裁量で購入	②その他	①②両方
	26	3	1

子供の読書活動の推進に関する計画について

計画の位置付け

「子どもの読書活動の推進に関する法律」（平成13年）に基づき策定

（第2条） 子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。

（第4条） 地方公共団体は、基本理念にのっとり、国との連携を図りつつ、その地域の実情を踏まえ、子どもの読書活動の推進に関する施策を策定し、及び実施する責務を有する。

【都】第四次東京都子供読書活動推進計画

- 都における子供の読書活動の推進に関する施策の方向性や取組を示すもの
- 第四次の計画期間はR3～R7年度

《計画の目指すもの》

1 乳幼児期からの読書習慣の形成

➢ 不読率※の改善（平成25年度からの半減が目標）

※1か月の間に1冊も「本」を読まなかった児童・生徒の割合

➢ 都内の全区市町村における計画策定

2 学習の基盤となる資質・能力の育成のための読書活動の推進

➢ 学校全体での読書活動、学校図書館活用の推進、学習活動における学校図書館の利活用の推進

3 特別な配慮を必要とする子供の読書環境整備の推進

➢ 障害の有無等にかかわらず全ての子供が等しく読書できる読書環境整備の更なる推進

4 読む本の質の向上、読書に主体的に関わる態度の育成

➢ 読書の幅を広げ読解力をつける

➢ 読書に喜びを感じたり、目的を持って本を読んだり、考えを深めたり、他人に伝えたりする

《主な取組》

- 1 発達段階に合わせた取組 読み聞かせに関する情報発信等
- 2 読書活動推進の基盤づくり 読書活動を支える人材の育成等

【国】第五次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画

- 子供の読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的方針を示すもの
- 概ね5年ごとに策定。第五次の計画期間はR5～R9年度

《読書活動の現状》

➢ 不読率 令和4年度末までの数値目標は達成されていない

	小学生	中学生	高校生
R4年度目標	2%以下	8%以下	26%以下
R4年度状況	6.4%	18.6%	51.1%

➢ 新型コロナウイルスの感染拡大

学校の臨時休業等、図書へのアクセスがしにくい状況が影響した可能性

➢ 読書量・読解力の現状

- ・1か月間の平均読書冊数は、平成13年よりも令和4年の方が多い
- ・日本の子どもの読解力はOECD平均より高得点

《基本的方針》

- 1 不読率の低減
- 2 多様な子供たちの読書機会の確保
- 3 デジタル社会に対応した読書環境の整備
- 4 子供の視点に立った読書活動の推進